

# ともだちっていいな



## 『わすれていいから』

大森 裕子 著

KADOKAWA 2024年

生まれたときから、いっしょの「おまえ」。でも、おまえはだんだん、いないことがおおくなったよなー。ともに成長する猫と子どもを描いた物語。



## 『きみとぼく』

谷口 智則 著 文溪堂 2024年

大きいと小さい、重いと軽い、ゆっくりと素早い…ぜんぜんちがうけど、なかよしのぞうとねずみ。でも、ある日ねずみがずるいことをして、ぞうはどこかへ行ってしまふ。そのとき、ねずみがとった行動は…。



## 『ネコになりたかったクモのルイージ』

ミシェル・ヌードセン作/ケビン・ホークス絵/

福本 友美子 訳 岩崎書店 2024年

子ネコがほしいと思っていたベティおばさんの家に入りこんでしまったクモ。ルイージと名付けられたクモは、おばさんを喜ばせようと、ネコのふりをしました。ところが、ある日…。



## 『きみがいるから』

くさか みなこ 作/はしもと みお 絵

マイクロマガジン社 2024年

階段をおりる足音。ちょっとだけはみ出た舌。おもちゃを狙う真剣な顔…。猫は友だち、猫は家族、猫は相棒。今日もありがとう。出会ってくれてありがとう。ずっと一緒にいようねー

TRC図書館流通センター 書誌情報より



## 『ともだちともる』

内田 麟太郎 文/黒井 健 絵 文研出版 2024年

小さなアマガエルと大きなウシガエルはお互いに、ともだちになりたいと思っても、なかなか声をかけることができずにいました。だまって、いっしょに夕日を見た次の日、ウシガエルはアマガエルに声をかけ…。



## 『ぼくは、ういてる。』

なかがわ ちひろ 作 のら書店 2024年

一平君は、とまどきういている。まわりからは、叱られたり、笑われたり。だけど、ういていると、思いがけないものが見えて…。一平君のあたらしい出会いを描いた絵本。



## 『ぼくのひみつのともだち』

フレヤ・ブラックウッド 作/椎名 かおる 文

あすなろ書房 2024年

都会の街なかにある、だれも知らない小さな森。そこには、男の子の大事な友だちがいた。森が伐採される日の早朝、信じられない奇跡が起こり…。ケイト・グリーンウェイ賞作家が描く壮大な物語。



## 『ひとりぼっちのオオカミ』

ケイティ・スリヴェンスキー 文/ハンナ・サリヤー 絵

/大竹 英洋 訳

BL出版 2024年

何千年も昔、森で生まれた1匹のオオカミの子は、ほかの兄弟と違って、静かで、穏やかで、甘えん坊。ある日、群れとはぐれ、見たこともない生きものに会い…。